



ルビ（振り仮名）

この『学園だより』でも、時々ルビを振るようにしています。普通に読んでいただければ、義務教育を終えた人なら解る程度の文章を書いているつもりですが、でも「止める」を「止める」と読ますような場合や、難しい漢字でも、平仮名にしてしまうと意味が失われてしまうような言葉や、仏教など「学生」を「学生」と読ませる特有の読み方などの場合などには、出来るだけルビを振るようにしています。

思えば、明治時代の新聞には、国民の啓蒙化に寄与しようといった意図もあったのでしよう、難しい漢字だけでなく、易しい漢字にもほぼ全てにわたってルビが振られていたものです。

○地方税課出方法に就ては知事書記官は素より
府廳に於ても御多忙の由なるが甲乙の差なき様
余程御注意厚きよし
○江戸堀南通三丁目の當府勸工場は近々新築落成の由なるが最早該場へ物産寄集めの事務は來
二月中旬より取掛らるゝよし
○當府廳構内の南手に馬車賣馬の爲に馬場を新
築あると聞けり
○府下に水上警察と稱し四大川を巡廻する（
パツタイラ）舟は是迄一艘にてありしが今度四
艘を増加し五艘にて水上を巡廻せらるゝ事にな
るに付昨今船大工職の者へ入札を申渡されたり
○府下長堀川の鯉座橋は大破に附近日懸替の着
手になる

朝日新聞（明治12年1月25日）

これも大正時代に編纂されたものですが、仏教の多くの經典や論文や戒律を網羅した「大蔵經」という全集がありますが、資料と脚注以外は、全三一巻全ページ全ての漢字にルビが振られています。ですから、こんな難しい専門書でも、意味は判らなくても、読むだけなら、小学生にも読めるようになっているわけです。そもそも、この全集のタイトルだって、ルビを振ってもらわなければ、「大蔵經」と読む人がいたとしても、別段不思議なことでもないでしょう。

國譯佛說無量壽經

修滿して、誠諦むなしからず、世間を超出して深く寂滅を樂へり。

(二〇)阿難、ときに彼の比丘、その佛の所の諸天と魔梵と龍神との八部大家の中において、斯の弘誓を發こす。此の願を建て已りて、一向に志を専らにして妙土を莊嚴す。修するところの佛國恢廓廣大にして超勝獨妙なり、建立常然にして無衰無變なり。思議兆載永劫において菩薩の無量の德行を積植す。欲覺瞋覺害覺を生ぜず、欲想瞋想害想を起こさず、色聲香味觸法に著せず、忍力成就して、衆苦を計せず、少欲知足にして染患癡なく、三昧常寂にして智慧無礙なり、虛偽諂曲の心あることなく、和顏愛語して、意に先だちて承問す、勇猛精進にして志願うむことなく、専ら清白の法を求めて、もて羣生を惠利す。三寶を恭敬し師長に奉事し、

国訳大蔵經（国民文庫刊行会）

恐らく、全てにわたってルビを振る配慮が日本人の読み書きの向上に無言の貢献をしたに違いありません。小学校の授業から大学入試まで漢字の読み書きのテストがあるようですが、敢えてそれ自体を目的とした読み書き訓練をしなくても、振り仮名表記に習慣づけられていた日本の子供達は、日常生活を通じて漢字を自然に身につけるようになっていったと言ったら、やや誇張に過ぎるでしょうか。

仲間との食事の席で、そんなことが話題になった時、O君が「ハリー・ポッターの日本語版にも全部じゃないけど、かなりルビが振ってありますよ」と教えてくれました。早速貸してもらって、見ましたが、最近のベストセラーにこんな心遣いがされていたのかと、とてもよい試みだと思いました。

ハリーはその夜、「呼び寄せ呪文」を習得するのに全神経を集中していたので、言い知れない恐怖感も少しは忘れていた。翌朝にはそれがそっくり戻ってきた。学校中の空気が緊張と興奮で張りつめていた。授業は半日で終わり、生徒がドラゴンの囲い地に出かける準備の時間が与えられた——もちろん、みんなは、そこに何があるのかを知らなかった。

ハリーは周りのみんなから切り離されているような奇妙な感じがした。がんばれと応援して、いようが、すれ違いざま「ティッシュ」一箱用意してあるぜ、「ポッター」と憎まれ口を叩こうが、同じことだった。神経が極度に昂っていた。ドラゴンの前に引き出されたら、理性など吹き飛んで、だれかれ見境なく呪いをかけはじめのではないかと思った。

松岡佑子訳 静山社

この話を聞き、F君がこう引き取りました。「終戦後、占領政策の一環でGHQが、日本の子供達は難しい漢字を覚えさせられている、だから識字率が上がらず、民主化を遅らせていると言って、日本語をローマ字表記に改めようと計画しようとしたんだけど、統計数理研究所の所員だった林知己夫という若い統計学者がすごく貢献したんだよね。この人は、地域や世代、各界各層に比例して抽出した二万人以上のサンプル調査を行って、非識字者は1.7%と世界各国と比べてすごく低いことを実証したんだ。これで日本人の読み書きの力は極めて高いことが判って、流石のGHQも驚いて諦めたんだそうだよ」。

そもそも、この文章の表題の「仮名」も、単独で使えば「仮名」となりますが、慣用句として熟語的に使えば「振り仮名」と濁り、先程の林氏の名前だって正確に読める人ばかりではないでしょう。全員の日本人の名前を読める日本人は、誰もおりません。キラキラネームなどになれば、なお更のこと。勿論、“Michael”とか、“Ursula”という名前をアメリカ風に「マイケル」とか、「アーシュラ」と、またドイツ風に「ミハエル」とか、「ウルスラ」と発音するという違いはあるにしても、欧米人で他人の氏名を読めない人は、まずいないと思います。これも、表意文字の日本語とは違って、abcを組み合わせた表音文字の

欧米語が為せる業でしょう。ですから、振り仮名は、やっぱり日本語にとって必要且つ重要なことなのです。

※GHQ（General Headquarters）とは、一般に連合国軍総司令部のこと。

昭和20年の敗戦から27年の主権回復までの間、7年間実質的に日本を統治した。

[＜前のページへ戻る](#)